

平成 25 年度(2013 年度) 第 2 回とよなか都市創造研究所運営委員会
議事要旨

日 時 : 平成 25 年(2013 年) 11 月 25 日(月) 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分
場 所 : 豊中市役所別館 3 階 研修室
出席委員 : 新川委員、赤尾委員、安藤委員、坂田委員、砂原委員、土山委員
事務局 : 福山、泉、森、熊本、平田、仲谷
傍 聴 : 0 人

開会

案件(1)ふりかえり

【資料 1】平成 25 年度(2013 年度)第 1 回運営委員会議事要旨

事務局から資料に基づき説明があった。意見等はなく、了承された。

案件(2)平成 25 年度(2013 年度)調査報告について(中間報告)

【資料 2】平成 25 年度(2013 年度)調査研究 中間報告

事務局から資料に基づき説明があった。以下、テーマごとに質疑応答をまとめる。

「少子高齢社会における人口の変化と市政への影響に関する調査研究()」について

・委員:人口研究グループで挙げられた将来の問題は一般的なものであり、アンケートとのつながりが見えない。人口研究グループとアンケート結果を人口研究グループの報告書にまとめるのであれば、二つがどう関連しているのか説明がいる。

事務局:人口研究グループとアンケートは並行してすすめており、日程の都合でアンケート結果と研究グループの議論が現時点でつながりきれていない部分がある。研究グループの報告書は最終的にはアンケートをふまえたものにする予定である。

・委員:コーホート要因法による人口推計は、この研究の中でどのような位置づけなのか。

事務局:人口研究は平成 24 年度からの 3 カ年をかけて実施しているところである。平成 24 年度は「過去データを中心とした数量把握」、平成 25 年度は「将来の推計まで含めた数量把握・要因分析」と「将来の行政課題の抽出」、平成 26 年度は「行政課題への対応策の検討」を実施する予定である。そのため今年度は人口推計を実施している。

委員:人口研究の全体的なストーリーが分からない。

事務局:今回のとよ創研とその人口研究グループが実施している人口の現況とそこから見えてくる行政課題の把握を、総合計画基本構想の点検につなげていく意図がある。基

本構想の議決から 15 年が経とうとしており、総合計画の基本構想にある想定人口が約 2 万人程度（人口の 5%）現状と乖離していることや、都市のデザインにかかる都市核の状況も変化があることから、基本構想の点検を平成 26 年度から企画部門で実施する予定である。

- ・委員：アンケートをクロス集計すれば、転出入の理由は年代ごとに異なることが考えられる。年代ごとの特徴を出すことで、若年層の流入を促進するなどの施策につながるのではないかと。

事務局：年代ごとの移動理由について、把握するためにクロス集計を進めていきたい。ちなみに転出入を年代で見ると、15 歳から 44 歳で転入超過、45 歳から 74 歳で転出超過傾向である。このあたりの理由を探りたい。

- ・委員：大阪は狭い地域の中で、市町村同士で人口の奪い合いになっているのではないかと。人口研究にあたっては、周辺市との関係や周辺市の状況を見ておく必要がある。

事務局：既に周辺市の移動状況を把握した上で研究を進めている。豊中市との関係で見ると、大阪市・吹田市から流入超過、池田市・箕面市・川西市・宝塚市といった北に位置する市に対しては転出超過傾向である。若い人に転出超過がある。周辺市の状況を見ると、西宮市が大幅に人口を増やしているのに対し、尼崎市は人口を減らしている。

- ・委員：アンケートは 7 地域区分をふまえているので、地区ごとの人口動態に合わせた施策配置の議論につなげないと、人口研究グループとはつながらないだろう。

事務局：人口研究グループで実施している行政課題の把握の際には、7 地域区分の観点もふまえて議論を進めたい。

「交通整備に伴う居住者特性の変化の調査（ ）」について

- ・委員：大規模インフラを作っても住民は入ってこないという事実を確認した。大事な点は、以前からの住まいを次の世代がどう引き継ぐか。高齢者が長く住んでいるという地域の特徴を前提として触れておいた方がよい。継続して住んでいると、手を入れずに古いままになってしまう。住まいの更新が進んでいない。それを次の世代がどうするか。

事務局：都市計画推進部まちづくり総務室が行っている住宅ストック調査連絡会議に参加しているが、庄内地区は空き家が増えていて、持ち主の高齢化のため管理が難しいという問題があると聞いている。

- 委員：さらに精査するならば、交通量調査や整備した幹線道路の使われ方を整理して読み解くことが、調査の前提としても、調査をどう使うかということにも必要になる。

- ・委員：市史の勉強で庄内を歩いたが、幹線道路はほとんど活用されていない。一步入ると狭くてくねくねして歩きにくい。沿線には廃墟も目立つ。それを整備しないと人は住まない。
事務局：市の施策として木造住宅等の除去費を補助する不燃化対策が始まっている。空き家対策も重要な課題。
- ・委員：道路を作るだけでなく、面的な整備も必要。利用用途指定や建蔽率は把握しているのか。商業地区なのか、2種住専なのか。土地利用の面から介入しないと変わらない。他の地域の土地利用効果と比較するのもいい。
事務局：検討したい。野田地区は大きく区画整理したが、それより南側の地域は横のラインとなる道路の出口がなく、詰まっており、循環できなくなっている。その点が課題である。
- ・委員：南部は小さい家が密集している。建蔽率を変えるなりして土地集約を考える方がいい。大阪は細分化を重ねる方向にある。
委員：南部地域活性化市民会議では、千里中央のコラボのような施設を作って人口を吸引しようという案もある。新しい施設である南部コラボとの連関性も考えてほしい。
委員：新築戸数を数えるという話から、都市計画、防災、地域の人による地域づくりまで目線をひろげて、ソフト面へどう展開していくかを含意した研究成果を期待。

「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究（ ）」について

- ・委員：住みやすいまちづくりを打ち出すと、近隣市と相似的になる。
行政の研究としては、コンセプトを1本に絞るのは難しい。正統性がない。市民が選んだ市長が決めるとか、特徴的な歴史があるとか、コンセプトを選ぶ正統性になる。
誰が当事者になってくれるかという目線も大事。魅力があることで誰がうれしいか、その当事者が動かなければ抜き出たものはできない。今は行政が推進役になっているが、それでは焦点が絞りきれなくて総花的になってしまい、ブランドとしてキャラが立たない。グループヒアリングもいいが、行政職員ばかり。汗をかいてくれる人が必要。
- 委員：総花的はよくない。川崎市はフロンターレ川崎と洗足学園音楽大学の2本だてで成功した。豊中市は音楽のまちと、もう一つ二つ、民間の力を発揮できるもの。
- 委員：市民活動をしている。豊中の財産は人、市民力を言われている。今はゆるキャラやバルなどが盛んだが、一過性にならないかと思う。
- 委員：地価を上げることが大事。地価を上げると富裕層が入り、ブランドがあがる。駅の便利さ、教育環境がよいと、いろいろな人が入ってくる。
- 委員：アートの力、まちなかでフラッと立ち寄れるような敷居の低いイベントで人を呼ぶ。

- ・事務局：第 2 回グループヒアリングでは、同じような意見が出た。豊中市には音楽アート系資源もあるが、近隣市（宝塚、高槻）が同様のコンセプトで先行している。住民の能力が高いことも注目されており、「人」に焦点をあてた創造都市を打ち出す案も出ている。また、地域ごとに特徴を踏まえたものを考えた方がいいという案もある。
- ・委員：住民を巻き込むことも大事だが、イベントに参加するということだけではなく、当事者として関わってくれることが大事。市長が変わったらおしまいではだめ。各コンセプトにどれだけ当事者がいるかという資源量を把握すること。
- 委員：地域ごと、行政、市民、事業者ごとのブランドなど、担い手ごとのブランドも検討してみてもどうか。

案件（3）平成 26 年度（2014 年度）事業計画（案）について

【資料 3】平成 26 年度（2014 年度）事業計画（案）

事務局から資料に基づき説明があった。以下、質疑応答をまとめる。

- ・委員：テーマ「地域特性を活かした文化振興に関する調査研究」については、南部地域活性化市民会議に参加してみてもどうか。
- 委員：データバンク事業に関して、個人情報保護を考慮した上で、行政情報をどう使うかという研究はできないか。
- 委員：データや施策の縦割りについて、横断活用できないか、などの研究はどうか。

案件（4）調査研究報告書の公開について

【資料 4】調査研究報告書の公開について

事務局から資料に基づき説明。意見等はなく、了承された。

案件（5）その他

- ・平成 25 年度（2013 年度）機関誌について（中間報告）
- 【資料 5】機関誌「TOYONAKA ビジョン 2 2 Vol.17」中間報告

事務局から資料に基づき説明。意見等はなく、了承された。

- ・事務連絡
- 次回第 3 回運営委員会は、2 月初旬に開催予定。

閉会